

受付番号

2023-26

許可番号

大歯医倫 第 111285-0 号

研究課題名

顎関節症の既往のある患者の顎関節核磁気共鳴画像における偽関節円板所見の発現頻度と長期予後に関する研究

研究責任者

前川 賢治

申請者

前川 賢治

研究終了日

2026年3月31日

所属

欠損歯列補綴咬合学講座

所属

欠損歯列補綴咬合学講座

職名

主任教授

職名

主任教授

申請の概要

申請者らは、顎関節円板障害の予後を予測する画像診断所見を明らかとすることを目的に「核磁気共鳴画像検査ならびに臨床診査を用いた復位性・非復位性関節円板前方転位患者の長期予後調査（研 1603-056 号）」を行ってきた。

しかし、MR 画像の評価基準、及びその検者内・検者間キャリブレーションが十分でなく、得られた MR 画像に関連した主要アウトカムである偽関節円板所見の検出における信頼性に疑問が残った。申請者らは、このような状況を打破するために、MR 画像評価基準のブラッシュアップに努め、MR 画像から関節円板動態、円板位置、円板変形、下顎頭位、下顎頭骨変形、joint effusion や偽関節円板所見の評価を信頼性高く行うことができる基準を確定した。

そこで、本申請研究では研 1603-056 号の研究サンプルに対して、新たに開発された MR 画像評価基準を適用し、その信頼性を検討するとともに、顎関節円板障害患者の初診時ならびに長期予後調査時における MR 画像所見の検出を行う。その後、治療終了後 10 年経過後の臨床症状を結果因子とし、初診時ならびに経過観察時の MR 画像所見を予測因子として、長期経過後に良好な予後を呈する症例に特徴的な MR 画像所見について、多重ロジスティック回帰モデルを構築することで明らかにすることを目的に後ろ向きコホー

---

ト研究を行う。

対象とする臨床症状データ，質問票データは，研 1603-056 号の研究サンプルに対して既に行っている臨床診査，質問票調査の結果を用いる。なお，この臨床診査，質問票調査は，研 1603-056 号の研究サンプルが，経過観察時の MRI 撮像と同日に行ったものである。臨床診査項目は，各種開口量（無痛，有痛，強制），咀嚼筋の圧痛の有無・疼痛部位，関節雑音の有無・種類（クリック，クレピタス），口腔内診査（咬合様式，咬耗程度）であり，質問票には，疼痛尺度（VAS），日常生活障害度に関する項目が含まれている。